

第26回日空衛全国会議

一般社団法人 東北空調衛生工事業協会
事務局長 鍵 茂



令和元年10月23日（水）沖縄県宜野湾市「ラグナガーデンホテル」で、全国から372名の会員が参加し、基本課題のテーマを昨年と同じ「空調衛生工事業の独自性の確立～地方の特色を生かした魅力ある業界を目指して～」とし、第26回全国会議が開催されました。

式次第は次の通りです。

会 議

1. 会長挨拶 (一社) 日本空調衛生工事業協会 会長 長谷川 勉
2. 来賓挨拶 内閣府 沖縄総合事務局 次長 小口 浩 様
3. 基調講演
演題 「気候変動に対して空調衛生設備が為すべき緩和策と適応策」
講師 琉球大学 工学部環境建設工学科
教授 堤 純一郎 様
4. 事例発表
 - 1) 「魅力的な建設産業に向けて～担い手確保と新たな人材育成」
双峯設備株式会社 代表取締役社長 曾和 英徳 様
 - 2) 「沖縄と OIST～これまでとこれから～」
沖縄科学技術大学院大学 博士（工学） 岩澤 錠児 様
5. 本部報告
「働き方改革の推進に関する報告」
経営活性化委員会 主査 三石 栄司



長谷川 会長



開会にあたり長谷川会長は「空調衛生工事業は今後とも最適な設備を責任をもって提供する企業使命の達成を通じて社会的責任を果たし、積極的な情報発信やPR活動によって、業界のプレゼンスを向上させる事が非常に重要である」と述べた。その上で「低炭素社会づくりへの取り組みに向け空調衛生工事業は、これまで長年培ってきた設備技術の経験とノウハウを活用し、今後も先導的役割を果たしたい」と訴えた。また、「働き方改革推進のためには生産性向上が必要不可欠で、BIMによって建築物の生産プロセスから維持・管理まで情報が一貫して利活用できるようになれば、設備施工の分野でも大きな効果が期待できる。着工時に設計要件がすべて決定されることで、設計図書の精度が飛躍的に向上し、施工時に不要な打ち合わせや調整が激減すると考えており、念願の長時間労働の解消が実現する。日空衛の『行動計画』に基づき、長時間労働の是正や週休二日制の推進など働き方改革に取り組んで欲しい」と訴えた。

その後、基調講演として琉球大学工学部環境建設工学科教授堤純一郎様による「気候変動に対して空調衛生設備が為すべき緩和策と適応策」がありました。前半はグラフやデーターを使っでの説明で、まったく大学の講義であり、標題の我々業界がどう取り組むべきかの方向性を重点的に取り上げていただければもっと良かったと感じました。

次に事例発表として長崎県佐世保市の双峯設備株式会社代表取締役社長曾和英徳様による「魅力的な建設産業に向けて～担い手確保と新たな人材育成」の発表がありました。身近な話の中で、特に高校への出前講座で講師としての心構え（生徒と同じ目線で）が特に印象的でした。又週休二日制に向け、繁忙期と閑散期の始業・終業の時間調整の決定などは大いに参考になったのではと感じました。

東北支部からは日空衛佐竹東北支部長、宮城空衛庄司専務理事及び中央管工業(株)の渡辺社長、秋田空衛阿部会長、岩手空衛菅原会長、青森空衛阿保副会長、福島空衛松原会長、山形空衛黒澤副会長、当協会から鍵、加藤が参加いたしました。来年は北海道旭川市での開催です。その次の令和3年は東北ブロック開催となりますので、来年の北海道旭川には、視察を兼ね、多数の会員皆様の参加を期待しております。

